



# 株主通信

第56期 決算のご報告

2013年4月1日から2014年3月31日まで



株式会社 丸順

## 株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび当社第56期決算（2013年4月1日から2014年3月31日まで）を終了いたしましたので、ご報告を申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2014年 6月

代表取締役社長

今川 喜章

### 連結業績の概況

当連結会計年度における世界経済は、欧州地域では欧州中央銀行による2度の政策金利引き下げにより景気持ち直しの兆しが見られ、米国ではリーマンショックによる金融危機から回復を続けており、失業率の低下や雇用環境の改善に加え、個人消費や住宅投資が堅調に推移するなど、全体として緩やかな回復基調となりました。

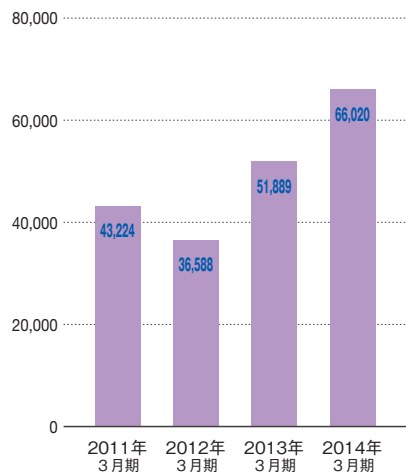
当社グループが属する自動車業界においては、米国では持続的な景気の回復による買い替え需要が堅調に推移したほか、中国では景気の持ち直しに合わせて主要都市部での自動車購買意欲が拡大しており、日本国内では低燃費車への消費者ニーズの高まりにより、軽自動車及びハイブリッド車の販売が拡大し、さらに消費税増税前の駆け込み需要などに支えられ国内市場は好調に推移しました。また、衝突安全性能や地球環境問題などの社会的な要求は高まり続けており、業界として対処すべき課題は年々増え続けております。

このような状況のもと、当社グループは第5次中期経営計画の仕上げの年として、各種の重点施策達成に向けて総力を挙げて取組み、2013年8月には新生産拠点となる埼玉工場の稼働を開始しました。また、2013年10月にはタイのサラブリー県ノンケイ工業団地に建設した新工場の一部が稼働を開始するなど、グローバル企業への種まきと基盤づくりに取組んでまいりました。

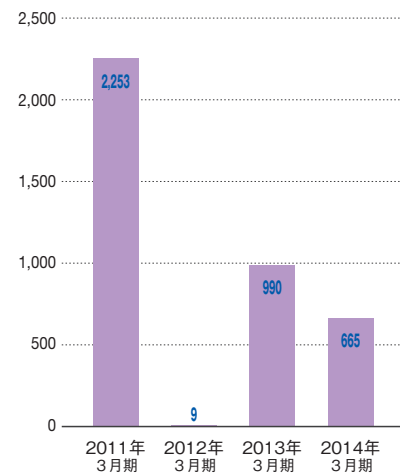
この結果、当連結会計年度における売上高は66,020百万円（前年同期比27.2%増）、営業利益は665百万円（前年同期比32.8%減）、経常利益は383百万円（前年同期比52.3%減）となり、当期純利益は959百万円（前年同期比76.0%増）となりました。

# 連結決算ハイライト

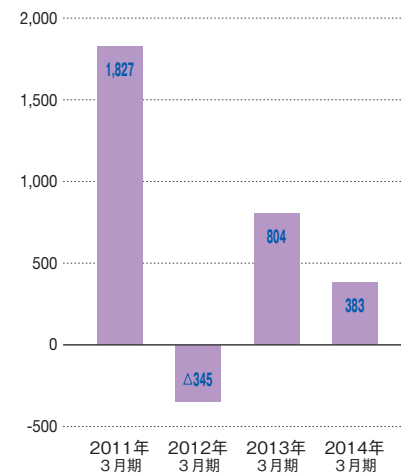
● 売上高 (単位: 百万円)



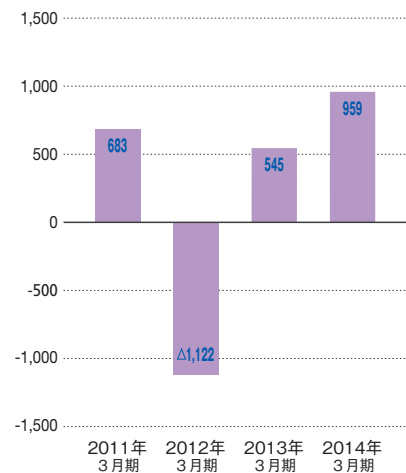
● 営業利益 (単位: 百万円)



● 経常利益 (単位: 百万円)



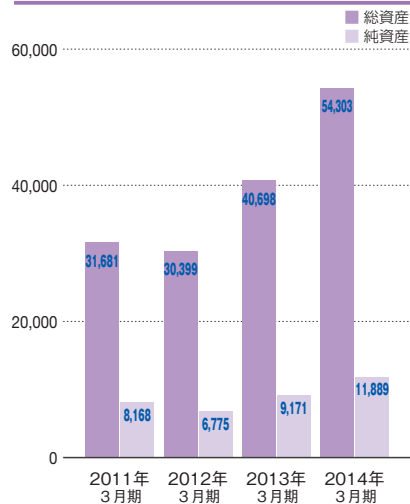
● 当期純利益 (単位: 百万円)



● 1株当たり当期純利益 (単位: 円)



● 総資産・純資産 (単位: 百万円)



# 連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当期末	前期末
	2014年3月31日現在	2013年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>19,131</b>	<b>14,848</b>
現金及び預金	2,486	2,026
受取手形及び売掛金	10,103	6,698
商品及び製品	494	419
仕掛品	2,395	1,561
原材料及び貯蔵品	1,639	1,540
繰延税金資産	249	255
その他	1,775	2,360
貸倒引当金	△12	△14
<b>固定資産</b>	<b>35,172</b>	<b>25,850</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>32,995</b>	<b>23,306</b>
建物及び構築物	6,739	5,972
機械装置及び運搬具	7,294	6,152
工具、器具及び備品	6,544	4,511
土地	2,164	2,102
リース資産	1,251	1,312
建設仮勘定	9,001	3,256
<b>無形固定資産</b>	<b>246</b>	<b>223</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,929</b>	<b>2,320</b>
投資有価証券	1,069	1,561
繰延税金資産	344	211
その他	532	563
貸倒引当金	△17	△17
<b>資産合計</b>	<b>54,303</b>	<b>40,698</b>

(単位：百万円)

科 目	当期末	前期末
	2014年3月31日現在	2013年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>28,671</b>	<b>19,774</b>
支払手形及び買掛金	9,062	6,450
短期借入金	14,573	10,166
リース債務	336	303
未払法人税等	457	63
賞与引当金	223	229
その他	4,017	2,561
<b>固定負債</b>	<b>13,743</b>	<b>11,752</b>
長期借入金	10,690	9,207
リース債務	1,030	638
繰延税金負債	303	533
退職給付引当金	—	953
退職給付に係る負債	1,397	—
資産除去債務	86	84
負ののれん	2	8
その他	234	326
<b>負債合計</b>	<b>42,414</b>	<b>31,527</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>6,015</b>	<b>5,718</b>
資本金	1,037	1,037
資本剰余金	935	935
利益剰余金	4,668	3,747
自己株式	△626	△2
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>1,761</b>	<b>447</b>
その他有価証券評価差額金	464	706
為替換算調整勘定	1,620	△259
退職給付に係る調整累計額	△323	—
<b>少数株主持分</b>	<b>4,112</b>	<b>3,005</b>
<b>純資産合計</b>	<b>11,889</b>	<b>9,171</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>54,303</b>	<b>40,698</b>

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当期	前期
	2013年4月1日から 2014年3月31日まで	2012年4月1日から 2013年3月31日まで
売 上 高	66,020	51,889
売 上 原 価	60,726	46,414
売 上 総 利 益	5,294	5,474
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	4,628	4,484
営 業 利 益	665	990
営 業 外 収 益	314	307
営 業 外 費 用	596	493
経 常 利 益	383	804
特 別 利 益	1,519	1,450
特 別 損 失	40	1,338
税金等調整前当期純利益	1,862	915
法人税、住民税及び事業税	616	258
法 人 税 等 調 整 額	△173	△4
少数株主損益調整前 当 期 純 利 益	1,419	662
少 数 株 主 利 益	459	117
当 期 純 利 益	959	545

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当期	前期
	2013年4月1日から 2014年3月31日まで	2012年4月1日から 2013年3月31日まで
営 業 活 動 に よ る キャッシュ・フロー	6,179	4,913
投 資 活 動 に よ る キャッシュ・フロー	△9,673	△7,100
財 務 活 動 に よ る キャッシュ・フロー	3,689	1,880
現金及び現金同等物に 係る換算差額	264	130
現金及び現金同等物の 増 減 額	460	△176
現金及び現金同等物の 期 首 残 高	2,026	2,202
現金及び現金同等物の 期 末 残 高	2,486	2,026

## セグメント別概況

※セグメント別の業績は、セグメント間の取引金額を含めて記載しております。

### ■ 丸 順（株式会社丸順） 構成比 23.1%

丸順においては、海外向け製品売上上の減少や金型設備・試作の受注が落ち込んだほか、新型車の部品生産の立上げ準備の遅れに伴う製造原価負担の増加などにより、全体として売上高、利益ともに前年を下回る水準で推移いたしました。

売上高は15,935百万円（前年同期比6.2%減）、経常損失は937百万円（前年同期は730百万円の経常利益）となりました。

### ■ タ イ（タイ・マルジュン社） 構成比 17.7%

タイにおいては、タイ自動車市場の復興需要が一服するも堅調な拡大を続けており、主要取引先の生産が好調に推移したほか、輸出においてASEAN、中東、オーストラリアなどの市場が拡大したことにより、売上高、利益ともに前年を上回る水準で推移いたしました。

売上高は12,226百万円（前年同期比40.2%増）、経常利益は769百万円（前年同期は154百万円の経常損失）となりました。

### ■ 広 州（広州丸順汽车配件有限公司） 構成比 20.2%

広州においては、依然として日中の政治的問題の影響が一部に残るものの、停滞した主要取引先の生産が回復に転じたほか、為替が円安基調で推移したことにより、売上高、利益ともに前年を上回る水準で推移いたしました。

売上高は13,988百万円（前年同期比72.5%増）、経常利益は573百万円（前年同期は23百万円の経常利益）となりました。

### ■ 武 漢（武漢丸順汽车配件有限公司） 構成比 8.4%

武漢においては、景気を持ち直しに合わせて主要取引先の生産が好調に推移したほか、為替が円安に推移したことなどにより、売上高、利益ともに前年を上回る水準で推移いたしました。

売上高は5,819百万円（前年同期比40.0%増）、経常利益は387百万円（前年同期比28.9%増）となりました。

### ■ インディアナ（インディアナ・マルジュン社） 構成比 25.3%

インディアナにおいては、米国経済の回復に伴う自動車買い替え需要により、主要取引先の生産が好調に推移し売上高は増加したものの、品質コストの上昇などに伴う製造原価負担の増加により利益は減少いたしました。

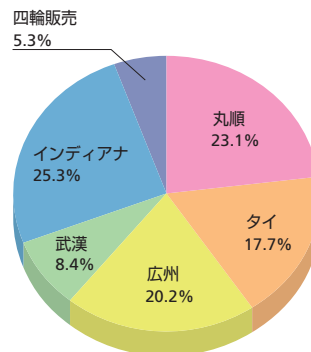
売上高は17,476百万円（前年同期比25.5%増）、経常損失は343百万円（前年同期は3百万円の経常利益）となりました。

### ■ 四輪販売（株式会社ホンダ四輪販売丸順） 構成比 5.3%

四輪販売においては、軽自動車及びハイブリッド車の人気に加え、消費税増税前の駆け込み需要も寄与し、新車・中古車販売、保険及びサービスも好調に推移いたしました。また、新規出店に伴い売上が拡大し、全体として売上高、利益ともに前年を上回る水準で推移いたしました。

売上高は3,631百万円（前年同期比33.9%増）、経常利益は64百万円（前年同期比49.0%増）となりました。

● セグメント別売上高構成比



# 株主様ご優待制度のご案内

締切  
2014年  
9月30日まで

- ご 対 象 当社株式1千株以上をご所有されている国内の株主様
- お申込み方法 同封の「ご優待プレゼントお申込み書」に必要事項をご記入の上投函して下さい。
- ご応募締切り 2014年9月30日消印有効  
※誠に勝手ながら、期日までにご応募いただけなかった株主様におかれましては「水都大垣ふるさと応援寄付金」へのご応募とさせていただきます。
- ご 優 待 内 容 下記8点の商品からお好きな商品を1点お選びいただけます。

株主様ご優待券5千円分  
(1,000円券5枚綴り)



株主様ご優待券のお取り扱いについて  
●本券は「ホンダカーズ大垣」「ホンダオートテラス大垣」の各店でご利用いただけます。

有効期限  
2014年7月1日～2015年6月30日まで

防災セット



肩掛け、手持ち、背負いと3タイプの使い方ができる防災バッグ。反射テープが付いているので、暗いところでも安心。

アン・アン  
折りたたみキャリーバッグ (ブラウン)



使わない時には折りたたんで収納できる便利なキャリーバッグです。

吉田ハムの飛騨牛ビーフカレー



岐阜県の豊かな自然の中で育った良質の飛騨牛をたっぷり使用したマイルドな味わいのリッチなレトルトビーフカレーです。お取り寄せご当地カレーとして、各種メディアでも紹介されている逸品です。

ル・コルドン・ブルー  
カマンベールチーズケーキセット



「最高の料理人」を意味する世界的に有名な料理学校「ル・コルドン・ブルー」。1895年誕生以来、全世界に優秀な料理人を送り出しています。フランスの伝統と豊富なレシピを継承する一流シェフ監修により生まれた濃厚な味わいのチーズケーキです。

南魚沼産こしひかり



おいしいお米が育つ環境に恵まれた新潟県南魚沼で収穫されたこしひかりです。

鈴鹿サーキットの  
モトピアパスポート



入園+アトラクション乗り放題のパスポートと1,000円分のご利用券のセットです。鈴鹿サーキットのモトピアは、自分で操縦して体感できるアトラクションが多数あります。  
●ご利用券は、鈴鹿サーキット園内の施設や売店・飲食店でご利用いただけます。  
●パスポートとご利用券のご利用期限は、**2015年2月28日**となりますのであらかじめご了承ください。  
●鈴鹿サーキットの休園日は、2015年1月13日～16日、1月26日～2月6日を予定しております。

「水都大垣ふるさと応援寄付金」への寄付



寄付金は、大垣市の公園や緑地の整備をはじめ、産業や観光の振興、環境保全、文化振興など、多様な分野で活用されます。

## 株式会社ベストテックスキョーエイとの合併による経営統合に関する基本合意について

当社は、2013年12月13日、株式会社ベストテックスキョーエイ（三重県四日市市、田中定樹社長、以下「ベストテックスキョーエイ」、敬称略）との合併に関する基本合意書を締結し、経営統合に向けた協議をスタートさせました。

当社と自動車業界を取り巻く近年の状況は、日本では人口の減少や自動車台数の飽和により販売台数が減少しているほか、競合企業や新興国製造業の成長により、競争は激化の一途を辿っております。一方、海外では回復を見せる北米の巨大市場に加え、急成長を続ける東アジア地域の自動車市場への対応など、経営環境に応じたより高度な会社運営が求められており、当社としては自社の強みとなる技術を活かした競争力ある部品を先駆けて提案し、競合他社に対して優位性を保持することが持続的成長に結びつくと考え、抜本的な事業構造改革の可能性を模索しておりました。

このような環境の中、当社とベストテックスキョーエイは双方を最良のパートナーとして認め合い、これまで別々に歩んできた歴史を乗り越え合併を行うことで、戦略的重点領域に経営資源を集中配分し、大幅に事業基盤の強化を達成できると考え、今回の基本合意に至る経緯となりました。

現在は、両社の企業価値算定作業のほか、将来に向けた企業価値の向上と中長期的な成長を支える新会社のマネジメントシステムの構築などについての協議を行っており、新会社のスタートのための基盤作りに注力しております。



名古屋証券取引所での記者会見後、握手をする両社社長（左：今川社長、右：田中社長）

### 合併の延期について（重要なお知らせ）

当初は、合併期日を2014年10月1日としておりましたが、2014年4月22日にお伝えしたとおり、当社とベストテックスキョーエイは、当初の目的を達成するためには経営統合に係る協議により多くの時間をかけ、綿密な合併計画を策定することが必要だとの合意に至り、合併期日を6ヶ月間遅らせ、2015年4月1日とすることといたしました。

引き続き、よりよい新会社を作るため、合併に向けた協議に注力してまいりますので、株主の皆様の一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

（合併の延期については、2014年4月22日情報開示の資料「合併に係る日程変更のお知らせ」も併せてご参照ください。）

### 合併スケジュールの変更内容

	変更前 (2013年12月13日公表)	変更後 (予定)
合併契約締結	2014年5月19日	2014年10月頃
ベストテックスキョーエイの株主総会において合併契約承認に関する議案の付議及び承認	2014年6月16日 (定時株主総会)	2014年12月頃 (臨時株主総会)
当社の株主総会において合併契約承認に関する議案の付議及び承認	2014年6月27日 (定時株主総会)	2014年12月頃 (臨時株主総会)
合併期日 (合併の効力発生日)	2014年10月1日	2015年4月1日

### ベストテックスキョーエイのご紹介

株式会社ベストテックスキョーエイは、三重県四日市市に本社を置く自動車部品メーカーです。本田技研工業株式会社を主要取引先としており、当社とはアメリカ、中国、インドにおいて合併会社を立ち上げるなど、これまでも深い協力関係にありました。**（株式会社ベストテックスキョーエイ <http://www.bestex.jp>）**



## タイ・マルジュン社 ノンケイ新本社工場が稼働開始しました

タイ王国サラブリー県に所在するノンケイ工業団地内にて建設を行っていたタイ・マルジュン社のノンケイ新本社工場が完成し、2013年10月より稼働を開始いたしました。

タイ・マルジュン社においては、2011年に発生した大規模な洪水により、当時の本社であったアユタヤ県サハラタナナコン工業団地内の工場が深刻な浸水被害を受け、生産が完全に復旧するまで約5ヶ月間を要する事態となりました。ノンケイ新本社工場への移転は、こうした自然災害のリスク回避を目的の一つとしたものですが、同時に、高効率生産の達成と環境・従業員への負荷軽減をコンセプトに様々な新技術とアイデアを集約し、業界トップクラスのエコ工場の実現を目指してまいりました。特に、省人化生産の推進、物流効率の改善及びエネルギー使用効率の向上等を徹底的に追求した結果、生産・人員・エネルギー効率等の指標測定で前本社工場対比25%以上改善するなど、今後の丸順グループのベンチマークとして位置づけられる工場が完成いたしました。



完成したノンケイ新本社工場外観

## 広州丸順汽车配件有限公司 新プレス設備を導入しました

広州丸順汽车配件有限公司は、1200 t 順送プレス機と3000 t トランスファープレス機を新規導入し、2014年2月より量産を開始しました。

自動車市場規模が世界第1位となった中国においては、自動車部品メーカー間の競争が激しさを増しており、日系部品メーカーだけでなく欧米系企業の参入や地元中国の新興企業の台頭などもあり、競争力の強化が急務となっております。

今回導入した1200 t 順送プレス機は、当社が得意とする技術難度の高い大型骨格部品の生産効率の向上と低コスト化に大きく寄与するものです。また、3000 t トランスファープレス機は、丸順グループの武漢丸順汽车配件有限公司と同仕様の設備で互換性を有しており、これまで培ってきた技術ノウハウの展開が可能のほか、突発的な計画変更や生産トラブル等に素早く柔軟に対応することが可能であるため、安定的かつ高効率・低コストの部品生産を実現いたします。この新規設備の導入により、中国地域におけるゆるぎない競争力の発揮とさらなる成長・受注拡大を目指してまいります。



新規導入の順送プレス機（左）とトランスファープレス機（右奥）

# 会社概要 (2014年3月31日現在)

商号	株式会社 丸順 (英文社名: MARUJUN CO., LTD.)
創業	昭和27年7月 (創業者・最高顧問 今川 順夫)
設立	昭和35年1月
資本金	10億3,755万円
事業内容	自動車用車体プレス部品の製造 自動車用精密プレス部品の製造 各種金型の設計・製作 治具・検査具の設計・製作 自動車の販売・サービス
従業員数	512名(連結3,983名)

## 役員 (2014年7月1日現在)

代表取締役社長	今川 喜章
代表取締役副社長	小高 光一
常務取締役	武田 利昭
常務取締役	齊藤 浩
取締役	奥田 崇雄
取締役	高塚 雅彦
取締役	猪熊 篤俊
常勤監査役	西部 隆雄
監査役	片岡 信恒
監査役	岡田 正市
執行役員	渡辺 敦
執行役員	松井 恒夫
執行役員	森見 幸敏
執行役員	林 和英

(注) 常勤監査役 西部隆雄氏、監査役 片岡信恒氏は、社外監査役であります。

## 国内拠点

本社(丸順新田GICビル)	岐阜県大垣市新田町2-1234
浅西工場	岐阜県大垣市浅西3-22-22
上石津工場	岐阜県大垣市上石津町乙坂130-1
ユーテック工場	岐阜県大垣市浅西3-75
養老工場	岐阜県大垣市上石津町牧田2947-1
埼玉工場	埼玉県鶴ヶ島市三ツ木新町2-5-23
栃木開発センター	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台198-5

## 国内子会社

株式会社ホンダ四輪販売丸順	岐阜県大垣市新田町2-1234
---------------	-----------------

## 海外子会社、駐在員事務所、主な出資会社

〔海外子会社〕	
タイ・マルジュン社	NONG KHAE INDUSTRY ESTATE BAN NONGSAMAK 62 MOO-6, KOKYAE, NONG KHAE, SARABURI 18230, THAILAND
広州丸順汽车配件有限公司	中華人民共和国広東省広州市広州経済技術開発区 永和経済区永盛路8号
武漢丸順汽车配件有限公司	中華人民共和国湖北省武漢市 東湖新技術開発区光谷一路223号
インディアナ・マルジュン社	200 INKS DRIVE WINCHESTER, INDIANA 47394, U.S.A
〔駐在員事務所〕	
ジャカルタ駐在員事務所	Menara Cakrawala Skyline Building, 19th Floor, Moh. Husni Thamrin Road No.9, Kelurahan Kebon Sirih, Kecamatan Menteng, Jakarta Pusat 10340, Indonesia
〔主な出資会社〕	
ベステックス・MM・ インディア社	SPL-2B, TAPUKARA INDUSTRIAL AREA, KHUSHKHERA, DISTT. ALWAR, RAJASTHAN-301707, INDIA

# 株式の状況 (2014年3月31日現在)

## 株式数及び株主数

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	9,771,000株 (自己株式1,004,855株を含む)
株主数	834名

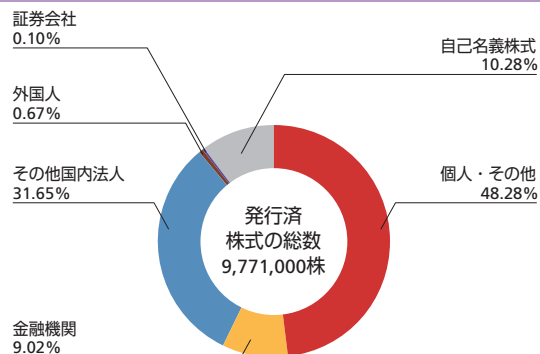
## 大株主の状況

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
今川喜章	1,019,070	11.63
本田技研工業株式会社	988,950	11.28
今川順夫	959,170	10.94
太平洋工業株式会社	463,950	5.29
名古屋中小企業投資育成株式会社	371,000	4.23
今村金属株式会社	330,000	3.76
株式会社三菱東京UFJ銀行	325,000	3.71
株式会社大垣共立銀行	300,000	3.42
有限会社イマガワ	300,000	3.42
丸順従業員持株会	286,080	3.26

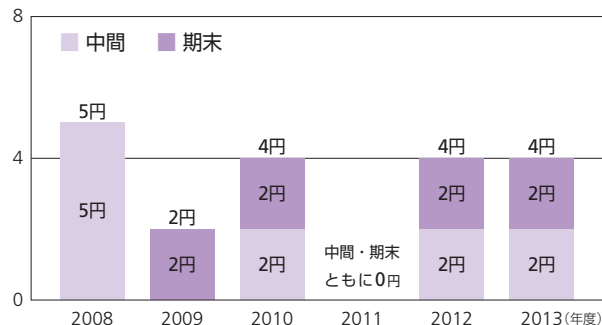
(注) 当社は、自己株式1,004,855株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 株式分布状況

### ● 株式数構成比



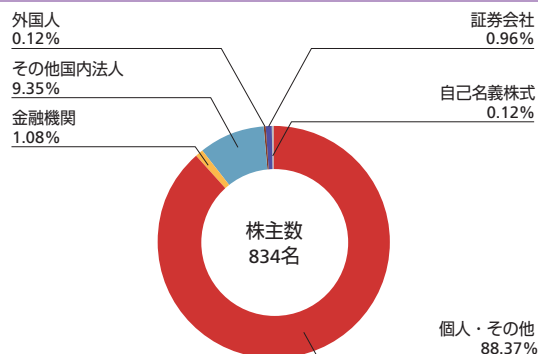
## 配当金の推移



当社グループの利益配分につきましては、株主の皆様に対する利益還元が経営の重要政策の一つであると考えており、配当性向、株主資本配当率、内部留保及び今後の業績動向等を総合的に勘案し、長期的視点に立った安定的・継続的な成果配分を行うことを基本方針としております。

以上の方針に基づき、期末配当金につきましては、1株当たり2円を実施させていただきます。なお、中間配当金として1株当たり2円を実施しておりますので、年間配当金は、1株当たり合計4円となります。

### ● 株主数構成比



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・ 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・配当金計算書について  
配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は、大切に保管してください。  
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収額の計算は証券会社等で行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いいたします。

